

# 昭和記念公園のあゆみ

昭和記念公園は、昭和天皇の御在位五十年記念事業として造られました。「緑の回復と人間性の向上」をテーマに、約 180ha もの広さを持つ都内最大規模の都市公園として整備されました。

1922 (大正 11) 年 立川飛行場が開き、国際空港として活躍する。陸軍関連の施設が設置されるようになる。

1945 (昭和 20) 年 太平洋戦争が終わり、アメリカ軍が進軍して駐在するようになる。

1977 (昭和 52) 年 立川基地がすべて返還される。

1979 (昭和 54) 年 「立川基地跡地利用処理大綱」にて、跡地や周辺地域をより良い環境にするために、大規模公園の設置が決定される。

1983 (昭和 58) 年 国営昭和記念公園の一部（みんなの原っぱ、花木園、ふれあい広場）がオープンする。

1985 (昭和 60) 年 レインボープール、西立川口がオープンする。

1986 (昭和 61) 年 水鳥の池、水遊び広場、溪流広場がオープンする。

1992 (平成 4) 年 こどもの森、玉川上水口がオープンする。

1997 (平成 9) 年 日本庭園がオープンする。

2001 (平成 13) 年 砂川口がオープンする。

2005 (平成 17) 年 花みどり文化センター、昭和天皇記念館、ゆめひろばがオープンする。

2007 (平成 19) 年 こもれびの里、こもれびの池がオープンする。

2010 (平成 23) 年 こもれびの丘、花の丘がオープンする。

2013 (平成 26) 年 高松口がオープンする。

昭和記念公園ができる前は、アメリカ軍の基地があり、飛行場や基地で働く人々が暮らす街がありました。



米軍立川基地内住宅地 (1980年)

その街の通りには木々の美しい並木が造られ、家の庭には木が植えられていました。



空撮写真 (1987年)

返還後は広大な土地と環境を活かして、緑豊かな公園を造ることにしました。

より多様で豊かな環境にするために、池を造り、さらにさまざまな種類の木々を植栽しました。



こもれびの池の整備風景 (1993年)

市民参加で造った雑木林などは現在も、ボランティアの方々と共に維持管理を続けています。



市民参加による植樹活動 (1993年)

## 公園のきまり

- ・園内の生きものは採取したり、持ち帰らないようにしましょう。
- ・立ち入ってもよい場所か確認して観察しましょう。
- ・スズメバチに出会ったら、立ち去るまでじっと待ちましょう。

# 国営昭和記念公園

## の昔と今



昭和記念公園は、  
多様な生きものがすみ、  
人々が楽しめる  
豊かな緑を育んできた国営公園です。  
今の公園を散策しながら、  
公園の歴史を感じてみませんか？



# 昔と今の風景を比べてみよう

園内にある4つの場所へ行って昔の写真と今の風景を比べながら歴史を感じてみましょう。



公園ができる前にあった  
サクラ並木 (1981年)

このサクラ並木は、今も桜の園の中にあります。基地の住宅地にあった美しい並木を、できる限りそのままの姿で、同じ場所に残しました。



オープン当時の大ケヤキ  
(1983年)

大ケヤキは、立川基地のころにはすでにここにありました。初めて見た調査員たちは、この美しい木を公園のシンボルにしようと考えました。

## 立川市の最高標高地点

もとは平らな地形でしたが、本来あった豊かな土壌を利用して土を盛りました。ボランティアや市民参加により、武蔵野の雑木林を彷彿とさせる、緑豊かな環境が整えられました。



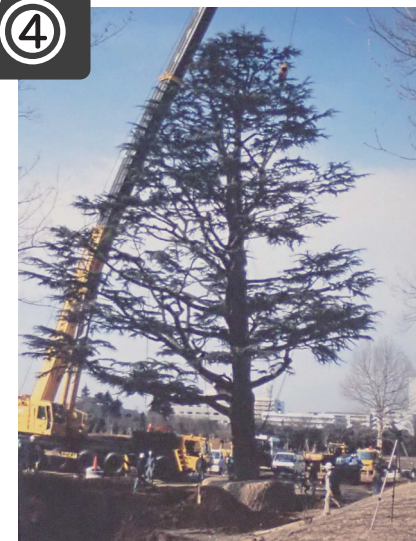
立川基地の頃、池はこの場所にはありませんでした。野鳥や多くの生きものが暮らせるように、ふちなだらかな傾斜をつけた池が造られました。



水鳥の池を造っているところ  
(1984年)



園内の貴重な樹木は、なるべく伐採せず移植しました。とくに大木の移植には高度な職人技術が必要で、伝統的な工法でおこないました。



移植されたヒマラヤスギ  
(2002年)

写真が撮影された場所と方向

参考：半田真理子「都市に公園をつくる 私の公園学」、朝日新聞社、1985年  
国土交通省関東地方整備局国営昭和記念公園事務所プロフィール <https://www.ktr.mlit.go.jp/showa/purofile-history/history.htm>、2021年11月6日参照